

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871900177		
法人名	医療法人 光邦会		
事業所名	グループホーム 銀荘		
所在地	兵庫県小野市葉多町257-1		
自己評価作成日	H26年4月20日	評価結果市町村受理日	平成26年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成26年5月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5名という小規模の事業所であるため、職員と入居者様 又は入居者様同士の関係性が保ちやすく、家族のような環境にあります。「和みの中で、私らしくいつまでも」を理念とし、一人ひとりの人格を尊重し、その人らしく過ごすことが出来るように支援していきます。また、入居費用は出来る限り経済的負担とならないように低額に設定しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の介護老人保健施設及び通所リハビリの建物の敷地内で運営され、田畑に囲まれ、のどかな環境にある事業所は、来年開設15周年を迎える。定員5名の利用者職員で1つの家族のような印象を受けた。「和みの中で、私らしくいつまでも」という理念の下、和気あいあいと、ゆったりとした時間が流れるような支援を実践している。同法人他施設と合同で地域の方も参加できる夏祭りを催したり、介護老人保健施設や通所リハビリの利用者をグループホーム利用に繋げたり、うまく連携がとられている。また職員にとっても緊急時対応などで安心感につながっている。職員の定着率は高く、利用者と馴染みの関係が築けている。今後、増床を伴う移転を計画されているとの事であるが、引き続き利用者が安心して暮らせるように現在同様、満足度の高い支援が提供されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で考えた理念「和みの中で私らしくいつまでも」を施設内に掲示し、皆で共有し実践している。	職員全員で考えた事業所独自の分かり易い理念を持ち、玄関入ってすぐの壁に掲示している。残された人生を少しでも楽しみ、気持ちよく過してもらえよう、笑顔を決やさず言葉遣いに気を付けて毎日の生活支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の秋祭りでは御輿に来てもらったり、併設の老健施設と合同でボランティアを受け入れ利用者さんに楽しんでいただいています。	併設の介護老人保健施設と合同で実施するシルバーランド夏祭りには地域住民も多数参加し、楽しんでもらっている。また近隣の中学生によるブラスバンド演奏、ボランティアによるハーモニカ・和太鼓の演奏、幼稚園児の来訪などによる交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けて貢献するまでには至っていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の4月に開催。委員及び家族へ活動を報告し、また様々な意見交換もあり、今後の運営・サービス向上に繋げていきたい。	入居者家族・介護保険課職員・地域包括支援センター職員・事業所職員等が参加して年1回開催されている。会議に2時間かけて運営状況・取り組み事項・事業計画等多岐にわたり、報告及び意見交換が行われている。家族会を兼ねており、4家族が参加している。	地域密着型サービス事業所は地域と連携し地域に密着した運営を進めていくために運営推進会議が設置されている。民生委員・地域代表者などの地域の参加者を加えて会議開催数を増やしていく取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する連絡会、または3ヶ月ごとの地域のグループホーム連絡会に参加し情報を得ている。	年2～3回開催される行政主催の地域密着型サービス事業者連絡会に積極的に出席し、関わることで協力関係を築くべく努めている。更新手続きなどの事務手続きについては事務長が一括して行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の老健での勉強会などに参加。また銀荘単独での勉強会を実施し、正しく理解している。	職員は身体拘束に当たる具体的な行為について理解しており、年間研修計画に沿って7月に勉強会を実施予定である。重要事項説明書に緊急止むを得ない場合を除き身体拘束を行わないことを明記しており、これまでに身体拘束の事例はない。日中、玄関の施錠は行っていない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施に加えて、職員のストレスを溜めない為、職員の思いを共有できる環境作りをこころがけている。	年間研修計画に沿って7月に勉強会を実施予定である。利用者の介護度が上がってきており、管理者は職員がストレスを一人で抱え込まないように話し合ったり、「連絡ノート」に言いたいことを書いてもらったり、2～3か月に1回、食事会をして防止に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を必要とする入居者はいない為、なかなか理解する機会が少ない。	管理者は制度の概要について理解しており、情報提供用のパンフレットを玄関入口に備えている。また職員共に制度の理解を深めるため、勉強会を実施する計画がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族の希望や不安を尋ね、また当グループホームの入居規定を丁寧に説明し、納得のうえ、入居契約を行っている。	入居前に併設の介護老人保健施設・通所リハビリを利用して利用者が多いが、事務長が契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し納得・理解していただいた上で契約を交わしている。料金改定時には文書にして家族等に送付し承諾をいただいている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見要望ノートを用意し、自由に記入できるようにしている。また、面会時など気軽にご意見を聞くよう心がけている。	普段の面会時や大きな行事開催時に意見を伺ったり、年1回の運営推進会議を開催する際に家族会を兼ねて意見要望を汲み取る機会としている。これまでに入院時におけるサービス利用についての問い合わせを受けたことがある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員連絡ノートを利用。また1～2ヶ月に1度職員会議を開催しお互いに意見を出し合う機会を設けている。場合によっては併設老健内での運営会議で職員からの意見を提出する。	管理者は「職員連絡ノート」や2～3月に1回開催の職員会議を通じて意見・提案を把握し、運営に反映するようにしている。また毎週1回、併設の事業所との合同会議の中でも取り上げ、運営に反映するべく努めている。最近では駐車場設置の改善事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもてるように、また、ゆとりを持って動けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の老健での合同の勉強会に参加している。また、自らの申請があれば研修費用の負担などの支援体制が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月ごとの地域グループホーム連絡会に参加し、情報の交換、サービスの質の向上につなげている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にバックグラウンドシートを作成して頂き、ご本人の生活歴やご家族の関係などを把握し今後どのようなサービスが必要とされるか理解する。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にバックグラウンドシートを作成して頂き、ご本人の生活歴やご家族の関係などを把握し今後どのようなサービスが必要とされるか理解する。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にバックグラウンドシートを作成して頂き、ご本人の生活歴やご家族の関係などを把握し今後どのようなサービスが必要とされるか理解する。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出きること、得意なこと、好きなことなどを一緒にあったり教えあったり、日常生活を互いに支え合っている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告書を作成し、常に最近のご様子をお知らせし、本人の思いを理解して頂いて、共に支えていけるよう配慮している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた家までドライブに出かけたりと個別の支援をしたり、併設の老健の利用者さんと交流を大切にしている。	入居時にバックグラウンドシートで把握した利用者の生活情報を基に利用者一人ひとりに沿った支援に努めている。利用者の介護度が上がり、外出が難しくなってきたが、併設の通所リハビリの利用者との交流や、友人や子供・孫の来所の際の支援をしている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定員5名の小規模施設のため、みんなが、ひとつのテーブルで顔を見合わせ話ができる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば相談や支援に応じたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言い表せない方には、じっくり対応し、思いを把握するようにしている、また職員同士、気づきがあれば情報交換し共有している。	家族に記入してもらったバックグラウンドシートを基に本人の身体状況・生活歴等を把握し対応している。また毎日の記録である「診療記録・看・介護記録」、「介護日誌」を職員同士で共有しながら本人の思いや意向を汲み取るようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にバックグラウンドシートを記入して作成していただいている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、1日の様子を観察し、職員同士、情報交換し共有している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は日々の気づきをカルテや連絡ノートに記録し、問題点を話し合い、ケアプランに反映させている。	毎日の「診療記録・看・介護記録」等を基に管理者と現場職員で担当者会議を開き、基本的に6か月に1回介護計画を作成し、家族の同意を得ている。往診医師のコメントを添えた近況報告を家族に送付している。	目標、評価の記載だけでなく、計画通りに各サービスが実施されているかの実施状況と目標達成度を記載するモニタリング記録が望まれる。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり、1日の流れを記入できるようにしており、更に職員間の連絡ノートでも情報を共有している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況変化・ご家族の要望があればその都度変更できるようにしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の老健での行事などに参加し、ご本人が出来ることなど積極的に行っていた。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に1度、依藤診療所の往診が可能で、ご本人・ご家族の希望を伺い対応している。	併設の事業所利用時から協力医に継続受診している利用者が多い。利用者家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。かかりつけの歯科や脳神経科などへの受診は家族が通院介助しているが、緊急時は事務長が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健の看護師に相談し必要に応じ受診等を行うことになっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が病院へ面会に行き、ご本人の現状や今後の治療の情報を得て、退院に向けて連携を行っている。	入院時は家族と事務長が付き添い、「継続看護サマリ」と「カルテ」を医療機関に届けて情報提供をしている。また入院中は管理者及び事務長が見舞いに伺うと共に家族と連絡を取って状態把握を行うようにしている。退院時は医療機関とも連携を取り、サマリを入手し退院後の継続的支援に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状悪化時の対応をご家族より書面でご意向を確認している。ご意向の変化もありうるため、何度も確認している(口頭にて)	事業所では基本的に看取りは行わず、必要な場合には併設の介護老人保健施設に転所していただく旨を入居者に説明し、家族等に「病状悪化時の対応について」シートに記入していただき必要な対応ができるようにしている。これまでに2件の看取りを経験しているが、看取りの方針についての文書化までには至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行うことは難しいが、機会を作って訓練をするようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署参加の防火訓練・防災訓練を3月に実施。災害時は併設老健の応援体制ができています。	事業所は年1回、消防署参加の下、防火訓練・防災訓練を実施し、市主催の防災研修に参加している。介護度の高い利用者が多いので、夜間想定避難訓練とシミュレーションを交えた避難訓練の実施と共に地域との協力体制の構築に向けた取り組みが望まれる。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の接遇には特に厳しく注意をしている。一人ひとりの人格を尊重し、目上の人という気持ちを忘れないようにしている。	プライバシー及び倫理・法令についての研修以外に併設事業所と合同で言葉づかいや接遇に関する研修を実施している。また毎日の利用者への支援の中でも馴染みの関係から馴れ合いと思われる呼び方にならないように職員に厳しい指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、ご本人の思いや希望を理解するように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを食事時間以外特に決めておらず、その日のその人のペースに合わせて決めるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時に、その人の好みに合わせるように援助している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなど、一緒にできることは行っている。行事食や誕生日などのリクエストを聞いている。	毎食の献立はその日の担当職員が決めている。誕生日にはリクエストに応じている。野菜の下ごしらえや下膳などを手伝っている。水ようかん等おやつを作りも楽しんでいる。1つのテーブルを囲んで職員と談笑しながらの、和やかな食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量や献立の内容が分かるようにしている。また、併設老健の管理栄養士の助言も参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の機能に応じた口腔ケアを実施している。義歯の方は洗浄剤を使用している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りトイレでの排泄を促し誘導している。	現在、おむつ使用の方は1名。排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。要介護5の方にも、工夫してトイレで排泄できるよう支援している。トイレは1・2階に1か所ずつある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルト、ヤクルトを摂取して頂いたり、体操や散歩で体を動かし予防に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間も決めていない。一人ひとりのタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらっている。入浴剤なども使用している。	ほぼ全員が毎日入浴している。概ね午後からの入浴で、入浴剤を使用するなど、楽しんで入れるよう工夫している。段差がある個浴だが、状況に応じて併設施設での入浴が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後などに声かけて希望があれば居室での休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報を把握し、服薬の支援をしている。また、症状の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事、好きなことなどを把握し、出来る状態であれば道具などを用意し支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは屋外散歩に出かけたり、庭でお茶を飲んだりしている。	敷地内の庭のデッキチェアでティータイムを楽しんだり、玄関先のプランターで育てている野菜の世話をしたり、外気に触れる機会を設けている。法人他施設と合同で花見やフラワーセンターに行くなど、遠出も楽しんでいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば支援する。現在希望されている方はいない。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が電話番号を押すなどの支援をしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節感が感じられる貼り絵などを飾り、お好みの音楽を流すようにしている。	リビングダイニングはスペースに余裕はないが、一人ひとりが寛ぎ、家庭のぬくもりが感じられる。大きな手製の日めくりや、それぞれが作ったこいのぼりが飾られていた。邪魔にならない音量で、みんなが好きな唱歌のCDが流され、昼時にはおいしい香りが部屋中に漂う。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングダイニングは狭い為、個々の空間としては各居室で過ごして頂いている。リビングの窓際の椅子は日向ぼっこの場所として利用。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室への持込は自由である。家族写真など飾られている。お気に入りの雑誌なども。	1階に2部屋、2階に3部屋配置されている。2階からは共有のベランダ通路に出ることができ、明るく開放的である。ベッドや大きな整理ダンスが備え付けられている。持ち込みは自由で、写真や絵を飾り、お好きな本が置かれていた。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子生活ばかりでなく、つたい歩きもできるように手すりを多く取り付けている。		